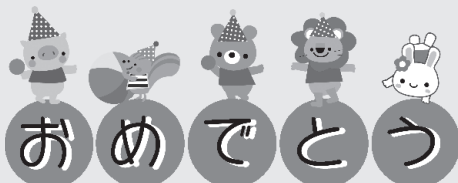


2月生まれ
HAPPY
BIRTHDAY



いつる
木村 一路 ちゃん
2月7日生 ④・添田東

幼稚園頑張ってるいっちゃん！
お誕生日おめでとう！健康第一
ですくすく育ってね♡食べすぎ
注意(笑)



ちな
田中 智菜 ちゃん
2月23日生 ①・峰地

1歳誕生日おめでとう！これか
らいっぱいお友達つくってね♡

3月生まれの
締め切りは、
2月16日(月)です。



未就学児のお子さんの写真を募集します

- ①お子さんの写真 ②お子さんの氏名 ③名前の読み方
④誕生日 ⑤年齢 ⑥行政区 ⑦メッセージ(50文字以内)
⑧保護者の連絡先をEメールで送信してください。
役場総務課窓口でも受け付けています。

送信先

koho@town.soeda.fukuoka.jp

役場総務課広報・秘書係 (☎82-4000)



地域子育て支援センター 2月の予定

- ★みそ作り ▷19日
★衣類交換「どーぞ！」ウィーク ▷16日～21日
★サークル「めだかっこ」(毎週火曜日)
▷10日/親子リトミック(給食) ▷17日/ペッ
ンアート(給食) ▷24日/虹の会読み聞かせ(給
食)
★サークル「おんぶに抱っこ」(毎週金曜日)
▷6日/虹の会読み聞かせ ▷13日/あみものク
ラブ ▷20日/親子健康教室・おっぱい
相談 ▷27日/お絵描き遊び
★ベビーサークル「あっぷっぷ」
▷4日 ▷18日/虹の会読み聞かせ
★マタニティサークル「ポコ・ア・ポコ」
▷12日(in支援センター)
※詳しくは「おんぶにだっこ通信」をご確認ください。
役場添田町地域子育て支援センター (☎85-0888)



まちかど特派員投稿

添田道場の拳士たちが躍動！

日本高山少林拳誠武会添田道場からの投稿です



↑大活躍した添田道場の拳士の皆さん

日本高山少林拳連盟の秋季武術大会が昨年11月16日に小竹町で開催されました。高山少林拳は、中国河南省の少林寺発祥の伝統的な中国武術で、拳術に加え、多くの武器を自在に操る技術にも魅力があります。年に2回、日本高山少林拳連盟主催の大会が開かれており、添田道場からも拳士たちが出場しました。拳士たちは日頃の練習の成果を十分に発揮し、大会に華を添えてくれました。

【演武試合結果】

●一般男子の部 第3位 平川悠人

●一般女子拳術の部 準優勝 平川花

●一般女子器械の部 優勝 平川和

※誠武会添田道場では、毎週木曜日と土曜日の18時30分～20時30分に添田町武道館で練習しています。興味のある人は、ぜひ下記まで連絡ください。

役場日本高山少林拳連盟誠武会 手島
(☎090-9591-9090)

歴まちコラム ～歴史と文化のふる里探訪～

役場商工観光振興課歴史文化財係(☎82-1236)

英彦山と 神様の使者タカの歴史

オークホールのロビーに町在住の福田暢夫さんの「神々の三羽の使者」という絵が飾られています。この絵は英彦山を背景に3羽のタカが銅鳥居にとまっている姿が描かれています。今回はこの絵に描かれているタカと英彦山にまつわるお話を紹介します。



福田暢夫さんの作品「神々の三羽の使者」↑

英

彦山では、昔からタカは神様の使者として考えられています。この由来となるのが、英彦山の歴史を記した「鎮西彦山縁起」という書物です。元龜3(1572)年に書かれたもので、豊後国日田郡(現在の太分県日田市)の藤原恒雄という獵師が英彦山で白鹿を射って殺したところ、3羽のタカが飛んできて、白鹿を生き返らせた逸話が紹介されています。最初のタカが、白鹿に刺さった弓矢をくちばしで抜き、次のタカは広げた羽で傷口をなでて血をほらい、最後のタカがヒノキの葉っぱに水をふくませ、白鹿に飲ませたところ、白鹿が生き返ったのです。この出来事

こ

のように動物を神様の使者とする考え方は、全国各地にあります。たとえば、京都市の伏見稲荷大社ではキツネを神様の使者として見なしています。これは諸説ありますが、キツネは農業の始まる春先から人里に降り、収穫が終わりを迎える頃に山へ戻っていく姿から、そのように考えられたようです。また、奈良市の春日大社では、神様が白鹿に乗って来た逸話から、鹿を神様の使者として大切に扱うようになりました。

英

彦山では、タカが大切に存在として扱われていますが、その一つとして英彦山神宮の御神紋が挙げられるでしょう。タカの羽を图案化したもので、奉幣殿前の灯ろうや下宮に下げられている幕などに描かれています。英彦山神宮を訪れた際は、一度見てみてはいかがでしょうか。

【文/西山紘二学芸員(商工観光振興課歴史文化財係)】

文芸歳時記

【短歌 投稿】

飼い猫は二度の入院二日間

娘の嫁ぎし金をパッパと奪い 櫻木マサ子

ゆく雲の行方は知れずわが生も 独活山強実

夢と知りせばたゆとう如し 佐藤 直

音も無く降り積もる雪眺めてる 冬寒さもわりと好きかも 柳瀬 一徳

煌く入陽ましかたらちねの母は 逝き給うあたたかき暮の日に 西村 宗雪

梅馨り箏止めて聴く鶯の 此処に居るよと愛告げに来る 久保田克利

心躍る掃除もありか施設より 一時帰宅の妻と正月 寺本 芳寛

すぐ帰れ人に言われる年の暮れ

【俳句 投稿】

奉幣殿巫女の仕種や淑気満つ 伊勢村 稔

果実酒はさるなしなりと冬の宿 柳瀬 満子

地下水の「山霊の水」2リットル 原田 祥二郎

ご当地の「英彦山サイダー」「米サイダー」 原田 順子

【川柳 投稿】

●3月号に掲載する俳句・短歌・川柳を募集します

2月16日(月)までに役場総務課に連絡してください。

※投稿は1人一句まで。俳句・短歌・川柳の区分を

書いてください。

役場総務課広報・秘書係(☎82-4000)